地域づくりに参画する態度を育む「ふるさと学習」
―総合的な学習の時間を中心に―

教職実践専攻・ミドルリーダー養成コース
学籍番号　20GP105　　氏名　澤田 夕香子

１　はじめに
（１）主題設定に当たって

日本の多くの地域で，過疎化・少子高齢化により地域の存続が危ぶまれる状況に直面しており，地域の振興や活性化を図る上で，次世代の人材育成は不可欠である。

このような状況の中，子どもたちが「持続可能な社会の担い手」として「地域づくりに参画する態度」を育成していくことは極めて重要であり，そのために地域の産業・歴史・文化等を教材として学ぶ「ふるさと学習」に取り組むことが有効であると考える。

「ふるさと学習」に係る先行的な実践事例としては，本県東通村の小中一貫教育校における「東通科」の実践など多数あり，それぞれ成果を挙げている。

本校においても，これまで総合的な学習の時間を活用して「ふるさと学習」が行われてきたが，今後より探究的なものに展開していく取り組みが必要であると考えている。

（２）「ふるさと学習」・「地域づくりに参画する態度」とは

本研究では，「ふるさと学習」と「地域づくりに参画する態度」を次のように定義する。

「ふるさと学習」とは
　地域の産業・歴史・文化等を「知り」「探究し」「考える」活動や地域の人々との交流を通して，自分と地域社会とのつながりを自覚し，地域のために実践できることや地域の未来，自らの生き方を考える学習

「地域づくりに参画する態度」とは
　身近な自然環境の保全や地域の将来像についての課題を見出すとともに地域の課題を自分ごととして捉え，その解決に向けて自分ができることに主体的に取り組む態度

（３）学校教育における「地域づくりに参画する態度」の育成の必要性

教育基本法や中学校学習指導要領，我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画等において，子どもたちが「持続可能な社会の創り手」として育成されることの重要性が示されている。[1)～5)]

２　研究の概要
（１）本校の実態

①生徒アンケート調査結果から

令和２年９月，全校生徒38名を対象に，本校が立地する中泊町小泊地域についての印象，地域の人々との交流の機会等についてアンケート調査を行った。

その回答から，生徒が地域に愛着を持っており，海や山を中心とした自然環境を地域のよさとして認識していること等が分かった。一方で，将来的に地域に留まる意識はあまり高くないこと，地域の人々との温かい交流の機会があると感じる生徒は全体の半数程度にとどまっていること等が分かった。

②教員へのインタビュー調査結果から

令和２年９月，本校教員13名を対象に，例年本校で行われてきた「ふるさと学習」につ

いてインタビュー調査を行った。

その回答から，今後の「ふるさと学習」について教員が生徒に身に付けてほしいと考える能力や，期待する姿に近づけるための学習活動の工夫が求められていることが窺えた。

（２）「ふるさと学習」で目指す生徒の姿の設定

本研究では，「ふるさと学習」で目指す生徒の姿を次のように捉えることとする。

・自分たちの住む身近な地域や中泊町の産業・歴史・文化等について正しい知識を持つ。
・地域の人々と進んで交流する。
・地域の人々とのつながりを感じ，地域の一員としての自分を自覚する。
・地域の課題を見つめ，その解決に向けてどんな取り組みができるかを考える。
・地域の未来や自分の生き方を考える。

（３）研究仮説

地域の産業・歴史・文化・人等の資源を活用した「ふるさと学習」に取り組むことにより，生徒は自分と地域社会とのつながりを自覚し，地域の課題を自分ごととして捉えるとともに，地域づくりに進んで参画する態度が育まれるであろう。

３　今年度の取り組み

（１）今年度の実践の方向性

今年度，第１学年の学級担任となったため，当該生徒を対象に実践・検証を行うこととした。総合的な学習の時間を中心に研究を行うに当たって，例年取り組んできた伝統芸能等の活動に加え，新たな活動を計画に盛り込んで実施することとした。

（２）本校第１学年生徒の実態と第１学年段階での「目指す生徒の姿」の設定

①本校第１学年生徒の実態

令和３年５月，第１学年生徒16名を対象に，小泊地域に対する意識についてのアンケート調査を行った（後掲**表８**参照）。

その結果から，地域が好きな生徒が多いこと，地域に留まる意識は高くないが，地域の将来のことは気にしていること，地域の産業・歴史・文化の理解については分野によってばらつきがあること，地域の自然を守りたいと思っていること，地域の人々と交流していると感じている生徒が半数ほどいること，地域の課題について説明できる生徒が３分の１ほどいることなどが分かった。

②第１学年段階で「目指す生徒の姿」

前述の「目指す生徒の姿」は，３年間ふるさと学習に取り組んだ後の「最終的な」生徒の姿として設定したことから，今年度の研究対象である第１学年段階で目指す生徒の姿の設定が必要であると考え，これを次のように設定した。

・身近な地域の産業・歴史・文化等について正しい知識を持つ。
・地域の人々と進んで交流する。
・地域の人々とのつながりを感じ，自分も地域の一員であることを自覚する。
・地域のよさと課題に気づき，課題に対して現時点で自身が取り組めることがないかを考える。

（３）「ふるさと学習」実践上の工夫

研究仮説のもと，生徒にとってより効果的な「ふるさと学習」が行われるよう，学習活動を進める上での具体的な工夫として以下のことに取り組むこととした。

・生徒が小泊地域について必然的かつ積極的に調べたり発表したりする活動や，意欲を持って取り組める活動を設定する。
・単元冒頭のガイダンスで，単元全体の活動の見通しを持たせる。
・生徒が自分の考えを自らの言葉で表現できるワークシートを作成・活用する。
（生徒が，具体的に考え等を書くことができるように観点を示す等）
・地元の人材をゲストティーチャー（ＧＴ）として積極的に活用する。
（活動の趣旨について共通理解を図るため，打ち合わせを念入りに行う等）
・地域課題等の新たな気づきや学びを深めるために，教師が積極的に関わっていく。
（発表資料作成時、発表活動時、カルタ制作時、話し合い時等）
・多様で深い学びを促すため，学年団を超えて複数の教員と連携・協力する。

（４）第１学年「ふるさと学習」指導計画の作成

総合的な学習の時間で取り組む「ふるさと学習」を見直し，次のような計画を立てた。

表１　見直し後の「ふるさと学習」指導計画

<table>
<tr><th>月</th><th colspan="2">主なねらい・学習活動・内容等</th></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2">「ふるさと学習」ガイダンス　【１時間】
・小泊の産業・歴史・文化の学習～伝統芸能体験～カルタづくり　といった活動の流れをつかむ。</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="2">小泊の産業・歴史・文化を知ろう　【７時間】
［ねらい］
・小泊地域の産業・歴史・文化について知るとともに,こどまりカルタづくりへの足がかりとする。
［主な学習活動］
①地域の郷土史家等（ＧＴ）から講話を聞く。（２時間）
②講話や資料をもとに調べ，発表し合う。（５時間）</td></tr>
<tr><td>7

8

9

10</td><td rowspan="2">「こどまりカルタ」をつくろう　【８時間】
［ねらい］
・地域の産業・歴史・文化を学ぶことを通して，自分が住む地域の多様な資源の価値を知る。
・地域の産業・歴史・文化についての学習をもとに，小泊の魅力を言葉や絵，写真等を使ってカルタに表現する。
・カルタで地域の小学生や高齢者等と交流する。
［主な学習活動］
①事前に小泊について学んだことを参考に，札の内容として取り上げるものを、小泊の「価値あるもの」として32個（生徒１人２個×16名）挙げる。（１学期中に２時間）
②各自が担当する内容の取り札に使用する写真等の素材を用意する。（夏休みの課題）
③50音を１人２つずつ分担し，取り札・読み札を作成する。（３時間）
④自分が作成した札について，作成時に考えたことや，担当した内容に対する思いを伝え合い，互いの札を鑑賞する。（２時間）</td><td>「なかどまり音頭」を踊ろう　【２時間】
［ねらい］
・「なかどまり音頭」制作の経緯や思いを知る。
・歌詞を読み解きながら，地域の魅力を感じ取る。
［主な学習活動］
①ゲストティーチャー（GT）から，「なかどまり音頭」制作の経緯や思いを聞く。
②歌詞に盛り込まれた地域の魅力を話し合う。
（①②で１時間）
③踊り方を教わる。（１時間）</td></tr>
<tr><td></td><td>小泊の伝統芸能に取り組もう
【14時間】（全校生徒）
［ねらい］
・地域の文化的資源の価値やそれを継承する人人の思いを知る。
・異学年の生徒や地域の人々との学習や交流を通してコミュニケーション能力を向上させる。</td></tr>
</table>

11	⑤小学生（または高齢者）とカルタを用いて交流する。（１時間） <「ふるさと学習」に関連する教科・事項> 家庭科：「郷土料理」「地産地消」	［主な学習活動］ ①地域の伝統芸能について調べる。（２時間） ・「下前権現太刀振り」「権現太鼓」の成り立ちに関する背景，歴史を調べる。 ・伝承の取り組みを調べる。 ②伝統芸能に取り組む。（１２時間） ・２，３年生から教わる。 ・伝統芸能の指導者（ＧＴ）から技術面でのアドバイスをもらう。 ・学校祭や地域の各所で披露する。 <「ふるさと学習」に関連する教科・事項> 音楽科：「日本の民謡」 「胴長太鼓」「締太鼓」（器楽）
12	振り返り 【２時間】 ［ねらい］ ・「ふるさと学習」への取り組みを振り返り，地域と自分のつながりを考える。 ［主な学習活動］ ①地域の産業・歴史・文化等についての現状を踏まえ，地域のよさや課題を見出す。 ②「ふるさと学習」への取り組みを振り返り，地域に対する自分自身の思いをまとめる。 ③地域の課題とその解決に向けて自分たちにできることを考える。（①～③で２時間）	

（５）１学期の取り組み

①「ふるさと学習」ガイダンス

「ふるさと学習」に取り組むに当たり，生徒が活動の見通しを持って取り組めるよう，始めに「ふるさと学習」全体のガイダンスを行った。これから取り組む内容や，身に付けていくべき事柄について学年主任が説明し，その後，筆者が次の時間から始まる各単元の具体的な学習活動・内容について説明した。

ガイダンス後の生徒の感想（ワークシート）には，「小泊の文化や歴史をたくさん知って話せるくらいになりたい」「漁業について調べてみたいと思った」「権現太鼓をやってみたい」「こどまりカルタは難しそうだけど楽しみだ」などの記述が見られ，今後の学習活動に対して意欲をもって臨もうとする気持ちが現れていた。

②「小泊の産業・歴史・文化を知ろう」

この単元では，地元博物館館長，漁協職員を講師（ＧＴ）に，地域の産業・歴史・文化に関する講話をしてもらった。産業分野の講話（漁業について）では，地元に在住する他学年の教員から，講師の選定・連絡調整，講話の補助等多くの協力を得た。生徒は，講話に関連した内容をもとに，一人一人が興味を持った事柄について個人テーマを決め，それについて調べてまとめ，互いにスライド発表するという活動を行った（**図１**）。

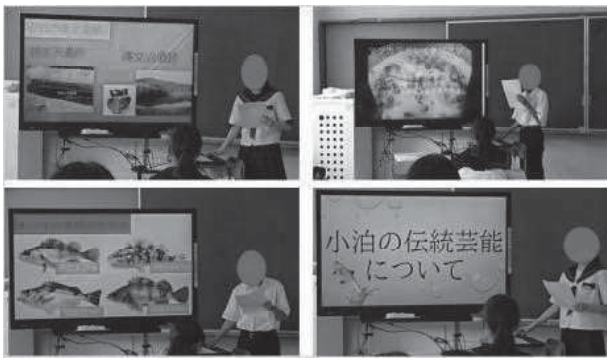

図１　スライド発表の様子

この発表では，同じようなテーマでも生徒によって，焦点の当て方が違っていたことが大変興味深く，スライド発表時の生徒の感想や，本単元終了時の振り返り（ワークシート）からも，新たに知り得たことや再発見した地域の魅力，今後取り組んでみたいと考えたことなど，多様な視点からそれぞれの思いを述べていた（**表２**，**表３**）。

表２　スライド発表時の生徒の感想（抜粋）

生徒C	・小泊漁協は海を守る取り組みをたくさんしていてすごいと思いました。僕も海を守る機会があれば挑戦したい。
生徒H	・今の小泊の海には，ゴミがたくさんあります。例えばプラスチックなどです。僕は，海にあるごみを少しでも減らしていきたいです。ゴミを捨てている人を見かけたら注意したいです。
生徒K	・伝統芸能が昔から変わらずに続いているということがわかりました。そして，これからもたくさんの人が参加して続いてほしいと思いました。中学校では太刀振りと権現太鼓をやるので，楽しく踊りたいと思いました。
生徒O	・小泊は漁業が盛んな町です。これは小泊の魅力だと思います。この魅力をいろいろな人に伝えられるのは，小泊が地元の私たちだと思います。ですから，これからもこの素晴らしい魅力を私たちが伝えられたらなと思いました。
生徒P	・マツカワガレイの養殖やメバルの稚魚の放流などは，豊かな海があるからこそできるのだと思いました。そして，この小泊の海が，生き物にとって住みやすい環境になってほしいと思いました。

表３「小泊の産業・歴史・文化を知ろう」の単元を終えた際の生徒の振り返り（抜粋）

生徒H	・小泊の漁業のことがよくわかったし，やっぱり小泊はよい所だなと思いました。
生徒P	・メバルの稚魚放流やマツカワガレイの養殖試験を知らなかったので，講話を聞けてよかった。
生徒N	・小泊は北と南が交流するところだと知って，改めて小泊はすごいところだと思いました。
生徒I	・みんなの発表を聞いて，自分が知らない小泊の特徴がわかりました。
生徒F	・もっと小泊の食文化についてたくさん調べたいと思った。 ・みんなのスライドを見て，小泊の知識が増えた。小泊の海を大切にしようと思った。
生徒M	・調べ学習をしてプラスチックごみが海にたくさんあることを知ったので，プラスチックごみを海に捨てないようにしたいと思いました。

③「こどまりカルタ」をつくろう（前半）

指導計画**表１**のうち，①～③の活動に取り組んだ。

取り札として採用する小泊の「価値あるもの」を決める活動では，生徒が前単元で得た小泊に関する知識や，普段の生活の中で地域や自分たちにとって大切だと考えるものから自由に挙げ，ここから32個（１人２個×16名）に絞っていった。中には決め直したり新たに加えたりしたものもあり，生徒にとっては，地域の「価値あるもの」に対する自分たちの気持ちを見つめ直す機会となった。

（６）２学期の取り組み

①「こどまりカルタ」をつくろう（後半）

読み句を考える活動では，各自が担当する「価値あるもの」について，作者（生徒）自身が表現したい思いを具体化できるよう，ワークシートの中に「読み句に入れ込みたい事柄」や「解説文」を記述する欄を設けた。そして，ここに記述した内容は，単元後半で行った札の鑑賞会で発表し合った。それぞれの読み句には，地域に住む生徒ならではの視点や実体験が反映されていた（**表４**）。完成した読み札・絵札は，学校祭の中でも展示発表した。

表４「こどまりカルタ」読み句作成時の生徒の言葉（抜粋）

	絵札に採用した「価値あるもの」	読み句に入れ込みたい事柄や解説文	読み句
生徒K	海の上に見える岩木山	実際に海の上にあるわけではないけど，高波の日も荒波の日も海にたっているように見えるので，この読み句にしました。	たか波　荒波　乗り越えて 高くそびえる 岩木山
生徒N	下前権現太刀振り	ピンピンと飛び跳ねる魚のような振り付けをする。全身で跳ね踊るのが印象的だったので書きました。	ちから強く 太刀ぶつけ合い跳ね踊る 下前太刀振り

生徒Ｐ	権現崎	いつも権現崎が小泊や下前に住んでいる私たちを見守っているように見えたので，この読み句にしました。	わたしたちを 見守っている 権現崎
生徒Ｉ	マツカワガレイ	今小泊漁港でマツカワガレイの養殖をしていて，小泊のマツカワガレイが有名になってほしいと思ったから。	マツカワガレイ 養殖をがんばっている 小泊漁協
生徒Ａ	小泊中学校	中学校は自然に囲まれていて夏には鳥や虫の声がよく聞こえ，思い出あふれる小泊中学校を表現しました。	おもいでいっぱい 自然もいっぱい 小泊中学校
生徒Ｌ	夕日	夕日が海にしずむときに，水面がオレンジにそまってとてもきれいだから，この読み句にしました。	ゆう日 オレンジにそまる 水平線
生徒Ｇ	緑のおばさん	通学路で子どもを見守っているからこの読み句にしました。	ほ行者を 見守る味方 緑のおばさん

11月には，実際にカルタを使って小学生（６年生）と交流をする活動を行った（**図２**）。カルタを使う前に生徒一人一人が作成した札について解説をする場を設けてから交流を行った。大変活発な交流会となり，小学生が本気で札を狙う姿も見られ，生徒は楽しんでもらえたことを喜んでいた。交流後の小学生の感想には，「カルタを通して小泊の文化や歴史を知ることができて，とても楽しかった。」「自分もカルタを作りたくなった。」「自分の思いを入れながら読み句や絵札に表していてとてもよかった。」などの感想が見られた。本単元終了時の生徒の振り返り（ワークシート）には，**表５**のような記述が見られた。

図２ 小学生とのカルタ交流

表５「こどまりカルタ」単元終了時の生徒の振り返り（抜粋）

生徒Ｌ	・最初は小泊や下前のいいところが少ないと思っていたけど，カルタを作って，地域のいいところをたくさん見つけることができました。
生徒Ｋ	・価値あるものを考えただけで50個以上も出てきて，改めて小泊はよい所だと思ったし，がんばって作ったカルタで楽しく遊んでもらえてよかったです。
生徒Ａ	・小学生と交流を深め合えたので，これからも地域のいろんな人とやってみたい。
生徒Ｄ	・改めて，小泊は地域の人がやさしくて，名所がたくさんあると実感しました。
生徒Ｈ	・価値あるものを残す大切さがわかった。

②小泊の伝統芸能に取り組もう

この単元は，例年全校生徒で取り組んできたものであり，「下前権現太刀振り」と「権現太鼓」に分かれて，それぞれ上級生から下級生へ伝承していく活動である（**図３**）。単元の後半では，地域で活動を継承している人材（ＧＴ）の指導を受けたが，その際，１学年生徒がＧＴにインタビューする時間を設けた。これまで生徒とＧＴとが技能伝達以外で交流することがなかったため，伝統芸能に取り組む思いを知る機会となった。これらの伝統芸能は，活動の成果として学校祭で披露した。

図３ 「権現太鼓」

③校外学習（※指導計画にはなかった活動）

10月に，カルタの札に採用された地域の「価値あるもの」を改めて巡る学習活動を行う機会を得た。中泊町博物館館長に再び講師を依頼し，同博物館の下前分館（地域内：旧下

前小学校）で近・現代の人々が実際に使用していた漁具や生活道具などを見学したり，小泊ダム，七ツ滝，道の駅，小説「津軽」の像記念館といった，カルタの札に採用した場所を訪れた。身近な地域にあることでかえって訪れることのなかった生徒もおり，読み句に読み込まれた景観をじっくり味わう機会となった。

④「ふるさと学習」全体の「振り返り」

12月に，「ふるさと学習」全体についての振り返り活動を行った。これまでの資料に改めて目を通しながら，学習してきた内容や活動を学級全体で振り返った後，生徒が個々に活動を振り返る時間を設けた。使用したワークシートは，「交流した人の言葉で印象に残っているもの」「自分の中で変化した小泊への思いや考え」「小泊の課題とそれに対して私たちは何ができるか」「『ふるさと学習』の活動全体を終えた感想」などについて記述できるようにし，記入する時間を十分にとることとした。

表６　交流した人の言葉で印象に残っているもの（抜粋）

交流した人	印象に残っている言葉		印象に残った理由
太刀振り講師	生徒B 生徒N	「神様が喜んでくれるように踊る」	・自分もそういう気持ちで踊ろうと思ったから。 ・初めて分かったから。
	生徒M	「生きのいい魚のように元気に踊る」	弱く踊らず，元気に飛びながら踊ることが印象に残ったから。
	生徒C	「下前の太刀振りを残していってほしい」	太刀振りを大切にしていると感じたから。
	生徒J	「伝統を引き継いでいってほしい」	私たちが引き継いでいくから。
権現太鼓講師	生徒O	「太鼓をたたくと気持ちいい，太鼓は楽しい」	最初はまちがえてはいけないなどとばかり考えていたけど，この言葉を聞いて，太鼓は楽しいということを広めて，伝統を引き継いでいきたいと思ったから。
	生徒E	「権現太鼓は楽しいものだと伝えてほしい」	小泊に権現太鼓を残そうとする気持ちが伝わっていくるから。
	生徒K	「発表して伝統芸能を引き継いでほしい」	発表したりするのは自分たちでもできることだと思ったから。
漁協職員	生徒H	「最終的に人間がゴミを食べる」	ゴミ問題は深刻なんだなと思いました。
	生徒P	「地元の漁業を活気づけたい」	私も下前の漁港を見て，そう思ったから。
	生徒D	「漁業後継者が減っている」	魚が安い，給料が安定しないから。

表７　「ふるさと学習」全体を終えての生徒の感想（抜粋）

生徒O	・これまでいろいろなことを学んで，もっと詳しく小泊のことを知れたし，小６と交流して「おもしろかった」「小泊の魅力がもっとわかった」と言ってくれたので，作ってよかった。自分もカルタ作りで小泊の魅力を知った。（略）もっと小泊の歴史について知りたいと思った。
生徒N	・小泊は地味で田舎ではずかしいと思っていたときがあったけど，話を聞いたり，実際に体験してみて，すごくいいところだと思いました。（略）いいところがたくさんある小泊にも課題が結構あるので，私が協力できたらしていきたいと思いました。
生徒M	・少子高齢化，漁獲量の減少などさまざまな課題があるけど，小泊には観光客にも人気な見どころなどがたくさんあるし，自然も美しいと思いました。小学生とも交流できて楽しかったです。
生徒H	・小泊には，たくさんの魅力のあるスポットがあってびっくりしました。特に，ダムや七ツ滝などは有名（略）
生徒G	・見学ができたから昔の道具を知れたし，いろいろな人に教えてもらったから，昔のこと，漁業のこと，文化のことを少し知ることができた。Oさん（太刀振り講師）のおかげで，伝統芸能を教えていく勇気が出ました。（略）
生徒E	・小泊にはいろいろな文化や歴史があるとわかったし，文化や歴史がいつまでも伝えられていってほしいと思った。小学生とカルタをして，自分たちで作ったカルタでいろいろ覚えてくれているなと思った。（略）
生徒D	・改めて小泊はいいところだと思った。海の幸が豊富で山があり，自然がいっぱいで地域の人がとてもやさしいと思う。でも，問題が多くどうなるのか心配になった。七ツ滝や折腰内に行き，いいところだと思ったから，問題を一つでも減らすために努力していければいいと思う。
生徒C	・僕は小泊のことについて少しは知っているつもりだった。でも，話を聞いた後は全然知らないことも多かったです。メバルなどの漁獲量が減っていることは分かっていたけど，想像以上に減っていてびっくりした。

表６からは，生徒が，ＧＴとの交流の中で，地域で活動する人々の思いを受けとめたり，この地域の一員として自分たちにもできることを実感したりしたことが分かる。また，伝統を引き継ぎ伝える役割を期待されていることや，地域の主要産業である漁業の現状と課題に気づいたことも窺える。

また，**表７**からは，地域について新たな知識を得たり，見所とされる場所を訪れたりしたことで，地域の魅力を再発見できたこと，小学生とのカルタ交流が，小学生にとっても自分たちにとっても有益な活動であったと感じたことが分かる。一方で，生徒たちは，地域に様々な課題があるということに気付いている。

振り返り活動の終末には，５月に行った事前アンケート調査と同一の設問で，事後アンケート調査を行った。その際，生徒個々の回答結果で，５月よりも12月の数値が上昇している項目については，その要因として考えられることも記述させた。

４　実践の結果と考察

（１）「ふるさと学習」アンケート結果の比較

表８は，「ふるさと学習」の事前と事後に行ったアンケート結果である。事前と事後の平均値を比較し，検討した。

表８　「ふるさと学習」アンケート結果の比較（ｎ＝16，ゴシック数字は回答者数，抜粋）

（7　とても思う　6　思う　5　どちらかと言えば思う　4　どちらとも言えない　3　どちらかと言えば思わない　2　思わない　1　全然思わない）

	設　問		7	6	5	4	3	2	1	平均
1	小泊が好きだ	5月	**9**	**3**	**1**	**3**				6.13
		12月	**4**	**3**	**6**	**2**	**1**			5.44
2	小泊にずっと住み続けたい	5月		**1**	**2**	**6**	**3**	**2**	**2**	3.44
		12月				**5**	**5**	**3**	**3**	2.75
3	小泊の将来のことが気になる	5月	**6**	**4**	**3**	**2**	**1**			5.75
		12月	**5**	**2**	**2**	**4**	**3**			5.13
4	小泊の産業を説明できる	5月		**3**	**7**	**2**	**2**	**1**	**1**	4.38
		12月		**5**	**1**	**5**	**4**		**1**	4.25
5	小泊の歴史を説明できる	5月		**1**	**4**	**5**	**4**	**1**	**1**	3.81
		12月		**4**	**5**	**4**	**2**	**1**		4.56
6	小泊の文化を説明できる	5月		**2**	**2**	**5**	**5**	**1**	**1**	3.75
		12月		**5**	**3**	**4**	**2**	**2**		4.44
7	小泊の自然を守りたいと思う	5月	**9**	**5**	**2**					6.44
		12月	**7**	**4**	**2**	**3**				5.94
8	小泊の伝統芸能を大切に伝えていきたいと思う	5月		**4**	**6**	**3**	**3**			4.69
		12月	**1**	**3**	**8**	**3**	**1**			5.00
9	小泊の人々と交流している	5月	**2**	**2**	**4**	**5**		**3**		4.50
		12月	**4**	**1**	**4**	**6**		**1**		5.00
10	小泊の課題について説明できる	5月	**1**	**2**	**3**	**2**	**3**	**4**	**1**	3.75
		12月	**1**	**3**	**6**	**3**	**2**	**1**		4.69
11	小泊の課題を解決するために何ができるか言える	5月		**3**	**3**	**3**	**5**		**2**	3.88
		12月	**2**	**4**	**4**	**3**	**3**			4.94
12	小泊の課題を解決するために行動したいと思う	5月	**1**	**5**	**2**	**6**	**1**	**1**		4.75
		12月	**2**	**7**	**2**	**3**	**1**	**1**		5.19
13	小泊の魅力を伝えることができる	5月	**4**	**5**	**4**		**2**		**1**	5.31
		12月	**4**	**6**	**5**	**1**				5.81

（平均値は小数第３位を四捨五入。網かけ：平均値が上昇した項目。）

本研究では，まず，第１学年段階で目指す生徒の姿（前掲）に迫ることを目指したことを踏まえ，それらと関連性が高いと考えられる設問４から13について考察したい。

設問5，6，8，9，10，11，12，13では，平均値の上昇が見られる。事後アンケート調査の際に，上昇の要因として生徒が回答した内容は**表９**の通りである。ここから，各設問に

おいて「ふるさと学習」で体験したことが自身の変化につながったと捉えている生徒が多かった。また，ＧＴの言葉がきっかけであった生徒も見られる。

表９　数値が上昇した要因として生徒が回答した内容（数字は回答者数）

	設　問	数値が上昇した要因として生徒が回答した内容
4	小泊の産業を説明できる	・ふるさと学習でやったから　(※数値が上昇した生徒の記述) 6
5	小泊の歴史を説明できる	・講話を聞いて分かった 6　・見学したから 1　・総合の時間に調べたから 1
6	小泊の文化を説明できる	・講話を聞いたから 9　・伝統芸能をやったし質問をしたから 2　・カルタをつくったから 1 ・文化祭や校外学習をやったから 1
8	小泊の伝統芸能を大切に伝えていきたいと思う	・伝統芸能を実際にやったから 2　・もっといろんな人に伝えていきたいから 1 ・私たちが引き継いでいくから 1　・講師の方に言われたから 1
9	小泊の人々と交流している	・あいさつなど 3　・講話で講師の人に教えてもらったから２ ・米作りを一緒にやったから（個人で）1　・伝統芸能の講師に直接聞けたから 1
10	小泊の課題について説明できる	・講話を聞いたから 2　・少子高齢化が進んでいるから 1　・小泊を見てみて思ったから 1 ・資料にあったから 1　・いろんな人に話を聞いて，さまざまな問題があると思ったから 1
11	小泊の課題を解決するために何ができるか言える	・講話を聞いたから 4　・課題を知ったから 1　・ごみのことは言えるから 1 ・考えてみたから 1　(※具体策：自分たちがＰＲする，漁業についてなど他に広める)
12	小泊の課題を解決するために行動したいと思う	・これから行動したい 2　・小泊をきれいにしたいから 1　・小泊をいいところにしたいから 1 ・聞いたことを私が伝えると，それだけでも小泊がよくなると思ったから 1 ・漁師さんの数を増やしたい 1
13	小泊の魅力を伝えることができる	・講話を聞いたりカルタを作ったりしたから 3　・総合の時間に調べたから 1 ・自然がたくさんだから 1　・海，漁業，文化など 1

また，事後アンケート（12月）結果の平均値が下降した項目が見られる。下降した要因は，筆者の推論の域を出ないが，地域についての学習や人々との交流を通して，地域の現状や課題が見えたことで，当事者の苦労を感じたこと，生徒が外の世界に憧れを持つような発達段階であること，進路指導の一環で職業調べを行ったことで，仕事のことを考えると地域に留まるのは難しいと思ったことなどが考えられる。生徒がより深く実情を理解するようになったが故の結果であると，前向きに捉えることもできるのではないか。

表10　生徒が挙げた小泊の「課題」と「私たちにできること」

分野	小泊の「課題」だと思うこと		私たちにできること
発信力	生徒Ａ	小泊を知ってもらい，行ってみたいと思う人が増えること	小泊の魅力をインターネットなどで伝えること
伝統芸能継承	生徒Ｂ	伝統芸能を伝える人が少なくなってきている	伝統芸能を伝える
少子高齢化	生徒Ｋ	人口が少なくなってきている	小泊のよいところをＰＲする
	生徒Ｍ	少子高齢化	小泊に住み続けて，伝統芸能などを次の世代に伝えていけばいい
	生徒Ｄ	少子化，高齢化，魚が減少している	人口が減って仕事が少なく大変だから，小泊のいろいろな魅力をアピールしたり，漁師を活気づけたりする
漁業の後継者不足	生徒Ｊ	漁師の数が減っている	漁師になるといいところと，海のよさなどをＰＲする
	生徒Ｐ	漁業の後継者不足	大人になったら，漁業のことを他の地域に教えたり広めたりする
ゴミ等の環境問題	生徒Ｉ	海のゴミ	ゴミが落ちていたら拾う
	生徒Ｏ	海にプラスチックのゴミなどが多いこと	なるべく海にゴミを捨てない
	生徒Ｆ	海や川にポイ捨て	ポイ捨てしない，海や川にゴミがあったらできるだけ取る
	生徒Ｇ	ゴミを海や外に捨てない	ゴミが取れるなら取れば，捨ててある量が減る
	生徒Ｎ	プラスチックなどのごみ	ポイ捨てをしない
	生徒Ｆ	ポイ捨て	ゴミを外に捨てないで家に持ち帰る
	生徒Ｃ	ゴミが落ちていること	ゴミ拾い
	生徒Ｈ	ゴミ問題，温暖化など	ゴミ拾い，二酸化炭素を排出しない

表10の通り，生徒が考える地域の課題を，主に５つの分野に分類してみた。地域のよさを伝える「発信力」，担い手が少なくなっている「伝統芸能継承」，「少子高齢化」，「漁業の後継者不足」，海や川，地域各所で見られる様々な種類の「ゴミ等の環境問題」など，いずれも「ふるさと学習」の各単元で学んだことや実体験などから感じた課題である。それに対して生徒自身ができることについては，具体性が乏しい内容も見られるが，それぞれの生徒が現段階で「私たちにできること」を考えることができた。

５　成果と課題

本研究を通して，これまで本格的に取り組んでこなかった地域の産業・歴史・文化・人等の資源を活用した「ふるさと学習」に取り組むことができた。また，これまで述べてきた結果から，地域の産業・歴史・文化・人等の資源を活用した「ふるさと学習」に取り組んだことで，「地域づくりに進んで参画する態度」の育成における第１学年段階の「目指す生徒の姿」に迫ることができたのではないかと考える。さらに，この取り組みを通して，生徒たちは，熱意を持って地域で活躍している方々と接することができた。そのような大人と交流する経験の積み重ねが，「地域づくりに参画する態度」を育てるために大きな役割を果たすのだろうと考える。これは，筆者にとっても大変刺激を受ける経験となった。

課題としては，生徒が地域の人や事物に自発的に働きかけるような方策のさらなる工夫が挙げられる。また，生徒が地域の課題に気づいたときに，その課題に対して生徒自身が「できる」と考えたことを行動に移す機会を設けることや，それを促すための働きかけを，教師が行うべきであったと反省している。

さらに，本研究では，「地域づくりに参画する態度」の育成を目指してきたが，生徒の事後のアンケート調査結果に数値の下降傾向が見られたことの要因に迫ることができなかった。

本研究の研究対象である第１学年の生徒たちが，今後２年間の「ふるさと学習」を通して，設定した目指す姿に変容していくよう，地域との連携の強化を意識しながら，学習計画を見直し，実践していきたい。

引用文献

１）教育基本法
２）文部科学省(2017)『中学校学習指導要領（平成29年告示）』
３）「国連持続可能な開発のための教育の10年」関係省庁連絡会議（2011）
『我が国における「国連持続可能な開発のための教育の10年」実施計画』（ESD 実施計画）
４）『青森県教育施策の方針』
５）『第２期中泊町まち・ひと・しごと創生総合戦略』

参考文献

田代高章・石川博昭（2014）『小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状と課題(2)』
田代高章・柏木廣喜（2015）『小中連携・一貫カリキュラムとしての総合的な学習の時間の現状と課題(3)』
持続可能な開発のための教育の10年推進会議（2009）『わかる！ ESD テキストブック２実践編　希望への学びあい―なにを，どう，はじめるか―』
青森県教育委員会（2018）『平成29年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業郷土を愛する心に関する県民の意識調査報告書』